

聖おもほゆる

連作和歌 百首歌集

2017/4/24-2018/10/20

- 9201 口だけが残りて経を誦したると伝ふる聖おもほゆるかな（かわせみ）（4月24日 11時22分）
- 9202 夢よりも覚めてのこれる言葉あり既に幾度われのいたみは（れん）（4月28日 12時53分）
- 9203 どうしても思ひだせない歌一首ゆうべの夢にうかびてゐしに（たまこ）（5月12日 03時15分）
- 9204 鳴き継ぐる慈悲心鳥や地震の村 あの顔あの声夢にぞ浮かぶ（やんま）（5月20日 19時16分）
- 9205 熊本の古きをよく知る漱石と寅彦嘆かむ怪奇の激震（水）（5月20日 20時52分）
- 9206 吾輩も顔を洗ひて眺むれば傷跡悲し肥後の街々（白馬）（6月4日 17時14分）
- 9207 晩年をさらさら刻む砂時計猫おもむろに顔を繕ふ（やんま）（6月5日 12時25分）
- 9208 はじめてのメイドインジャパン新元素113を言祝ぐ命名（水）（7月6日 10時17分）
- 9209 その人のみ名を称へて西方の彼の地に生れて共にまみえむ（丹仙）-法然の正如房（式子内親王）宛書簡を読んで（9月19日 13時56分）
- 9210 淋しくば唱え尽せよひたすらに夜の漆黒虫の鳴き継ぐ（やんま）（9月20日 23時43分）
- 9211 虫の声ふと目が覚めて枕元の飲みかけのビール音たてて飲む（弁慶）（9月29日 17時54分）
- 9212 秋風にゴーヤの青葉そよぎつつ実は黄金色有終の美へ（水）（9月30日 09時15分）
- 9213 天空に留まり切れず鬼やんま裏の青きについと身を消す（やんま）（9月30日 23時10分）
- 9214 細胞が自己を喰らひて若返る不可思議を聴く秋の真夏日（丹仙）大隅博士ノーベル賞受賞（10月4日 16時57分）
- 9215 腰につく余分な脂を燃焼す熱中時代我を忘れる（くりおね）（12月17日 07時27分）
- 9216 細胞に「もったいない」の意あるごと日々スクラップ・ビルドに励む（水）（12月17日 11時50分）
- 9217 本年の日々の出来事見返るに貧乏ながら良くぞ遊びし（やんま）（12月19日 18時30分）
- 9218 歳晩を耳遠くなる夫にわれ貧しき中に恵の目はも（れん）（12月30日 23時50分）
- 9219 元朝や眼翳む老いの我が胸に微に息吹く創造の歌（丹仙）（1月1日 00時00分）
- 9220 西方に富士くっきりと浮かみみてはやも暮れゆく二日目の空（シナモン）（1月2日 17時33分）
- 9221 賀状に見る二つ巴の紅と紺に浮かびしもの何ならむ（れん）（1月3日 20時13分）
- 9222 陰陽の光りて波動粒子なる世界繰込む博士の初夢（丹仙）朝永振一郎のエッセイを読み（1月4日 20時49分）
- 9223 初夢は太古の浜に寄せ返す金波銀波の鈍き輝き（やんま）（1月16日 09時54分）

- 9224 天空にしかと輝く寒昴寒さ忘れて我は恍惚 (はるか) (1月23日 16時11分)
- 9225 拾はれたやふな命をながらへて白雪けさはななじゅうしなり (れん) (2月13日 21時56分)
- 9226 すみれ咲く季節(とき)の恵みの嬉しさよ大地踏み踏み命愛ほし(やんま) (2月16日 08時07分)
- 9227 復生は此処に始まる大地踏み春の息吹のいのち歌へば (丹仙) 東條耿一「いのちの歌」に寄せて (3月8日 12時10分)
- 9228 復生の池での幻覚その記憶アンジェラスの鐘ひびかふたよ (れん) (3月26日 08時47分)
- 9229 ニコライの鐘の響きに佇めば今も頬笑む遠き面影(やんま) (3月28日 22時06分)
- 9230 再びは逢うことのなき人なれど面影むしろ鮮やかとなり(茉莉花あらため莉由) (4月11日 03時12分)
- 9231 卯の花をかざしに夢の晴れ着かなおもかげにたつ遠き日々はも (れん) (4月15日 01時16分)
- 9232 懐かしき名に蘇へり友の貌かの日のデュエット今も鮮やか(真奈) (4月16日 14時28分)
- 9233 故郷の幼な友のいと音痴蛙けろけろ大地に笑ふ(やんま) (4月18日 21時53分)
- 9234 異性の目気にするでなし発言も自由に過ぎし女子校時代よ(莉由) (4月22日 01時36分)
- 9235 黒板に記す発句の鋭さにやぶれかぶれの付句三昧(4月22日 03時11分)
- 9236 壱万首目指す桃李の溪道にゆかしきひとの歌付けたまふ(丹仙) (4月24日 08時21分)
- 9237 縄電車しゅしゅぽぽ走る何処までも遥か銀河に蠍座の駅(やんま) (4月30日 21時37分)
- 9238 受賞には言葉少なしボブ・ディラン「答は風の中にあり」とぞ(莉由) (4月30日 23時14分)
- 9239 退職しあらためて読むノルウェイの森なつかしき七十路の風(丹仙) (5月3日 15時38分)
- 9240 薔薇館エリゼの為の曲流るあの日の事のふと甦る(やんま) (5月7日 18時58分)
- 9241 若者は如月夜半の駅にきて月の光を歌い始める(5月19日 07時43分)
- 9242 フィリピンの熱風が晒す餓鬼道を歩む人みな小人なりけり(恋歌) (5月19日 18時42分)
- 9243 獄舎にて共に死を待つ兵士らにモンテンルパの夜は更けにけり(丹仙) (5月19日 21時46分)
- 9244 叱られた犬の寝息を聞いている父母兄弟に会いたいなタロ(恋歌) (5月20日 13時47分)
- 9245 遠吠えに種族の在り処まさぐれど遠き夜汽車の音を聴くのみ(やんま) (5月20日 21時11分)
- 9246 遠き過去深き淵より甦る海人のごと共に創らむ(丹仙) 「共生と創造」の為に(5月21日 18時49分)
- 9247 太腿を2人並べて行くバイク 日本 kawasaki 異国に踊る(恋歌) (5月22日 14時10分)
- 9248 海光に若き血潮を滾らせて行く爆音の高らかにあり(やんま) (5月22日 23時32分)
- 9249 死を見捨てひたすら生きよ白寿まで海程の濡(みお) 標(しる)す反骨(丹仙) (5月23日 10時40分)
- 9250 坐して読むカフェ書店の午後3時卒寿のエッセイ傘寿を鼓舞す(水) (5月23日 18時30分)
- 9251 静かにと願えどかなし日々のことこみ上げ叫ぶ生きゆく惑ひ(れん) (5月23日 21時53分)
- 9252 しずかなときに しずかなくうかん 在原 業平になりたし しずごころなく(恋歌) (5月24日 19時26分)

- 9253 反戦の為に闘ふ底ひには寂静心（しづごころ）あれ己（おのれ）盡さむ（丹仙）（5月25日 10時33分）
- 9254 この世界その片隅のしづけさを愛すればこそ反戦の歌（彰）（5月28日 15時54分）
- 9255 警官も学生闘士も同世代あの熱情の安田講堂（やんま）（5月29日 22時03分）
- 9256 図書館で借りた新刊フランク「もうひとつのく夜と霧」読む（莉由）（5月30日 19時25分）
- 9257 意気地なし保身思ひて抗わず民の願ひを歯牙にもかけず（白馬）（5月31日 22時16分）
- 9258 大いなる悲の誓願のありてこそ眞智無差別身心に満つ（丹仙） 岡潔に寄せて（6月10日 10時19分）
- 9259 根性と言ふ人の世の汚れなど何処へ流せば純粹得らるる（やんま）（6月10日 21時33分）
- 9260 きよらかな根性もつらん少年棋士連戦連勝に驕ることなく（水）（6月11日 11時49分）
- 9261 深海に息することのきよからむ遥けく遠ひ創造の道（れん）（7月2日 21時53分）
- 9262 大海に雲の峰あり真帆片帆今も青春終えられずをり（やんま）（7月3日 23時07分）
- 9263 大海は 父の手の如 椽の葉を広げたる父 如何におわすか（恋歌）（7月23日 11時09分）
- 9264 父の無き処に父を見給ひし御身は吾を友と呼びけり（丹仙）（8月14日 23時18分）
- 9265 われ支え育てし父の足の脛銃弾埋めしままに他界す（やんま）（8月15日 21時38分）
- 9266 足も手も工夫も足りぬ不足とは心の内の未熟な故に（9月15日 12時10分）
- 9267 この里は 訪なう者なし 万作の花 面影恩ある 人が手を振る（11月17日 11時02分）
- 9268 木漏れ日に寒禽の唄止めどなし里の万作今が盛りと（やんま）（11月17日 20時28分）
- 9269 たどり来ていまだ山麓竜王の而今に賭る無窮の道よ（丹仙） 羽生永世七冠に寄せて（12月19日 08時33分）
- 9270 笹鳴を聞きしと山里人の言ふただ風音の中に佇み（ひであき）（12月28日 11時29分）
- 9271 伝説のこんぶくろ池水清く蝮草咲き尉鷄飛ぶ（やんま）（12月28日 22時27分）
- 9272 魚籠下げて清流伝ふ細き糸古人は滝川と言ふ（白馬）（12月28日 22時34分）
- 9273 冬ざれに筑前琵琶の風に乗り三味の音和して博多の師走（水）（12月29日 18時48分）
- 9274 隣室の妻が三味線の音聴いている今は現か夢の最中か（やんま）（12月31日 15時34分）
- 9275 夢の中夢説く君にこと問はばひふみよいむなや手毬つく音（丹仙）（1月1日 11時08分）
- 9276 ここよりか先は天なるわの世会あらたにまたもいきむとすなり（れん）（1月1日 22時54分）
- 9277 臘梅の一枝を活けて事始めやすけくあれとこの国の朝（寂）（1月2日 21時38分）
- 9278 朝掛けし斜め襷は臙脂色つなぎつなぎて今どのあたり（ひであき） 箱根駅伝二日目（1月3日 13時29分）
- 9279 早朝に走る人ありその息の白きを眺め足萎えの吾（やんま）（1月14日 23時08分）
- 9280 並足でせめて歩き続けんと人に連なる歌ぞ愉しき（真奈）（1月22日 12時15分）
- 9281 足早に風は竹林かけ抜けてはやも脱ぎたるよべの淡雪（ひであき）（1月23日 14時43分）

- 9282 雪道をすれ違いざま我が為に「お気を付けて」と身をよけしひと(莉由) (1月28日 11時46分)
- 9283 今朝の根雪となりし通学路徘徊の吾歩幅小さく(やんま) (1月28日 23時00分)
- 9284 絵馬掛けの真中を駆けて春の風妻を越さじと歩幅小さく(ひであき) (1月30日 15時33分)
- 9285 相次ぎて共に八十路となる年は過ぎたる日々を慈しむらん(莉由) (3月14日 14時22分)
- 9286 杖突きて喜寿の山坂越え行くによっこらどっこい声出してゆく(やんま) (3月15日 22時43分)
- 9287 七の文字三つ重ねし喜びの日は輝けり復活の朝 (丹仙) (4月8日 13時23分)
- 9288 樹々の香の五月の風に息吹かれて歩む二人の顔は輝く(晶) (5月4日 18時22分)
- 9289 マスクとり帽子をぬいで会釈する爺さん婆さんに五月のささやき(水) (5月5日 16時52分)
- 9290 聖五月紅薔薇黄薔薇携えて熱き血潮を君に捧げむ(やんま) (5月7日 21時38分)
- 9291 水無月は雨多き月道すがら青紫の七変化見ゆ(莉由) (6月19日 23時28分)
- 9292 霧込める梅雨は開けれど胸のうち医師不在なる山の静寂(れん) (7月15日 10時46分)
- 9293 暑いねと言へば罰金百円がいくら貯まるや昼の静寂(やんま) (7月17日 07時55分)
- 9294 言の葉のこうふくよ(9294)なり歌ふ文サマリア人のごとくにあらむ(れん) (9月2日 16時58分)
- 9295 老耄も創造的なり古稀越えて人を助くるサマリアの人(丹仙) (10月5日 10時12分)
- 9296 原罪もこの世の罪も負ひかねて喜寿なる我に挫折感あり(やんま) (10月5日 13時32分)
- 9297 御身により御身とともなり御身のうち七度転びて八度目に起つ(晶) (10月15日 18時39分)
- 9298 西郷どんの流されし島牢獄の闇より出でて朝日仰げり(丹仙) (10月20日 14時18分)
- 9299 電話置く後の静寂に佇めば漆黒の闇ちちろ虫鳴く(やんま) (10月20日 14時34分)
- 9300 片隅に鳴ける小さき虫さへも生命つなぎて来しぞ尊き(ぼくる) (10月20日 20時37分)